

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

#### II. 家族との支え合い

#### III. 地域との支え合い

#### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成31年2月6日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 9名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	2名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3870102690
事業所名 (ユニット名)	グループホーム優寿の里 1階
記入者(管理者) 氏名	堀美恵
自己評価作成日	2019年 1月 16日

<ul style="list-style-type: none"> <li>生活の質の向上</li> <li>共に生きる姿勢</li> <li>信頼関係の確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人記録に本人の表情、発した言葉など、細かく記録として残しておく。</li> <li>緊急連絡網を使って、実施訓練を行いスムーズに対応できるか確認する。</li> </ul>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>海や川に近く、豊かな自然に囲まれた環境であり、玄関まわりは丁寧に手入れされ、季節の花が見事に咲き誇っている。事業所近隣は機械部品を扱う企業が多く、隣の企業とは災害時の避難協力を得ることができ、併せて地域住民や他福祉事業所とも災害時の支援体制が敷かれ、事業所としての発信力が高く感じられる。2階ユニットは代表者夫妻が、1階ユニットは代表者の親族夫妻が中心となった運営方法はユニークであり、利用者を主体とした家庭的な事業所であると感じられた。</p>
---	--	--

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	記録の共有やご本人やご家族とのコミュニケーションを多くとり、思いを探るように努めている	◎	/	◎	利用者から話を聞くとともに、家族からも面会時や介護計画の作成時に情報を得ている。得た情報はアセスメントシートに記入して共有し、身体的情報にとどまらず、生活史や嗜好に至る幅広い情報収集ができています。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	ご家族からの聞き取りや入所後、お元気だった頃の言動・細かい表情や反応の変化を観察している	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	ご面会の際にお話をさせて頂いている	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	日常記録、サービス担当者会議、ケース会議、連絡帳などがある	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	幅広い観点から考察するように努めている	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	ご入居時の聞き取りやご面会時にお聴きしている。	/	/	◎	入居前に福祉サービスの利用があれば事業者から情報を得ている。利用者や家族からの情報に加え、インターネットを使い出生地、長く住んでいた地域の社会資源、思い出の場所、自宅周辺の地図等の情報をまとめ、アセスメント内容を日常のケアに活かしている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	日常支援の中で意識して努めている	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	ほぼ把握しているが、想定外のことも起こることがある	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	多角的に観察、分析している(パーソンセンタードケア)	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	日課表を作り、把握している	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	サービス担当者会議やケース会議で話し合い、検討している	/	/	○	毎月、サービス担当者会議、職員会議、モニタリング会議を実施し、利用者のニーズに基づいた検討を行っている。参加できない職員はあらかじめ事前に意見を提出し、職員の意見がアセスメントに活かされている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	サービス担当者会議やケース会議で話し合い、検討している	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	課題を明らかにしている	/	/	/	

愛媛県グループホーム優寿の里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	常に本人主体に検討することを心がけている	/	/	/	利用者や家族とは、支援時や面会時に課題を共有している。往診する医師や看護師とも情報を交換し、それぞれの意見を活かした介護計画作成となっている。介護計画の作成については、近隣の看護事業所とも助言をしよう関係にあり、より良い計画書の作成に向け取り組んでいる。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	可能な限り反映し、取り組んでいる	◎	/	◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	重度化する以前のことやご家族様からの情報を参考にしている	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	現状、ご家族に恵まれないご入居者が多い。地域資源の活用は盛り込んで実施している	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	内容を把握・理解・共有できるように工夫している	/	/	◎	毎月の職員会議やモニタリング会議で、介護計画に関する共有・理解を深めている。日々の個別支援記録で実施状況を確認することができるが、利用者の具体的な暮らしの様子や支援してどうだったか、職員の気づきやアイデアといった記録が少なく、個別支援計画に基づいた支援記録の充実に期待したい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	1回/月モニタリングし、確認・調整して支援している	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	個別に記録している	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	個別に記録している	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	3か月置きに見直しをしている	/	/	◎	3か月を基本とし、介護計画の見直しを実施している。毎月モニタリング会議を開催し、全利用者の現状確認を行っている。入退院等、利用者の状態に変化が生じた際には、その都度利用者や家族、関係者と話し合い、速やかな見直しを行っている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	1回/月モニタリングし、確認・調整して支援している	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	現状に即した追加や変更を随時行っている	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	サービス担当者会議やケース会議を開催している	/	/	◎	毎月の職員会を課題解決の場としている。会議に参加できない職員には事前に話し合いたい内容の意見を求め、議事録の回覧、申し送りノートの確認で伝達している。重要な内容については、管理者が口頭で理解度を確認して、確実に情報を伝達している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	日頃から意見の出やすい職場環境づくりを心がけている	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	シフトや休憩の取り方なども工夫して開催している	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	会議録、連絡帳、口頭説明で伝えている	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	会議録、連絡帳、日常記録、日誌、口頭説明などで共有している	/	/	○	議事録や連絡帳、申し送りノート等を活用し、確認後に押印し、管理者が最終的に回覧状況を確認している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	会議録、連絡帳、日常記録、日誌、口頭説明などで伝達している	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	コミュニケーションの機会を多く作って把握し、支援している	/	/	/	レクリエーションでは、利用者がしたいことを選択できるよう、塗り絵や計算ドリル等バリエーションを広げている。利用者のアセスメントは十分に行っているため、好みや生活歴といった情報を活かした声かけを実施し、思いや反応がよく見られており、生活の様々な場面を自己決定する場となっている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	コミュニケーションの機会を多く作って把握し、支援している	/	/	◎	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	本人主体を心がけて取り組んでいる	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	本人主体を心がけて取り組んでいる	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	コミュニケーションの機会を多く作って把握し、本人主体で支援している	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	日常支援の中で注意深く観察、記録し、職員間で共有して取り組んでいる	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	心がけてはいるが、言葉かけがグレーな場合がある	◎	◎	○	家族や地域住民からは、声かけや対応が丁寧に行われているとの意見が聞かれている。プライバシーの配慮をしながら丁寧に利用者に話しかけるように心がけているが、共同生活の場であるため、難聴の利用者については「さりげなく」が難しい場合がある。居室が利用者専用の場所であることを理解し、扉を開放することを好む利用者にはのれんを設置する等の工夫を行い、プライバシーへ配慮している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	心がけてはいるが、言葉かけがグレーな場合がある	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	◎	言葉かけや誘導の仕方を工夫して行っている	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	配慮している	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	配慮している	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	残存能力や趣味、嗜好を把握し、活躍の場面を提供している	/	/	/	利用者同士の相性や、その時々によってトラブルが予測される際には、時間や場所を調整しながら支援し、利用者同士の関係が良好なものとなるように努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	利用者同士がお互いを尊重できるように職員が間に入って支援している	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	職員間、利用者間の相性を考慮し、適切なかかわり方を工夫して支援している	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	職員が間に入って良好な関係の橋渡しをしている	/	/	/	

愛媛県グループホーム優寿の里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	◎	本人、家族、知人から聞いて把握している	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	◎	本人、家族、知人から聞いて把握している	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	◎	本人の要望に沿ってできる限り支援している	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	職員の対応、居室の居心地などに配慮し、面会に制限は設けていない	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	◎	外気浴は日課として取り組み、外出支援はご本人の希望や必要性、また、職員の用事に同伴する形で日常支援している。	○	×	○	天気の良い日は外気浴や散歩に出かけ、職員の用事に同行するなどの戸外に出る機会が多い。重度の利用者も外気浴や、可能な時にはドライブに出かけている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	対応の慣れた職員が、外出時間だけの時間出勤で協力し、増員して実施している。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	◎	取り組んでいる	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	◎	支援している	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	勉強会や参考資料、おはよう21などで学ぶ機会を持ち、理解して支援している。	/	/	/	アセスメントで心身状況を確認しながら、レクリエーション活動を通じて機能の維持・向上が図れるように、提供する内容をよく研究している。脳トレ、計算ドリル、塗り絵のほか、踏台昇降をしたり、音楽を聴きながらのリハビリ体操、歩行訓練と、いったバリエーションの多さには、取り組みに対する職員の意欲を感じる。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	勉強会や参考資料、おはよう21などで学ぶ機会を持って理解し、個別に把握して支援している。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	生活リハビリとして、残存能力を奪わないように支援している	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	把握して支援している	/	/	/	生活リハビリ等の運動プログラムを日課にしている利用者や、調理や洗濯等の家事を役割として持つ利用者もいるが、全体的に重度化により機会が減少傾向にある。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	日常的に生きがいや役割のある生活を考えて支援している	○	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域資源を活用した楽しみも企画して支援している	/	/	/	

愛媛県グループホーム優寿の里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	個別に把握し、個性を尊重して支援している	/	/	/	事業所を挙げて整容面での支援には積極的に取り組んでいる。重度の利用者を含め、アセスメントで好みをよく把握し、「本人らしさ」を追及する支援に努めている。職員はプライドへの配慮を心がけ、さりげない介助に努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	◎	個別に把握し、個性を尊重して支援している	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	個別に把握し、個性を尊重して寄り添った支援をしている	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	生活の彩りに合わせておしゃれを楽しめるように支援している	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	プライドを傷つけないように配慮してカバーしている	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	理美容の利用の希望があれば支援するようになっているが本人、家族の希望で職員が散髪支援を行っている方もいる。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	重度な方にも工夫して支援している	/	/	◎	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	勉強会や参考資料、おはよう21などで学ぶ機会を持って理解し、個別に把握して支援している	/	/	/	1階ユニットと2階ユニットで、食事の支援方法に異なる部分がある。1階ユニットでは、宅配業者のおかずを利用し、炊飯をユニットで行っている。2階ユニットでは、利用者の好みを取り入れながら調理を共にし、朝どれ野菜といった旬の食材を使った季節の献立となっている。できる限り箸を使って自分で食べることを支援するため、食器類は全利用者に持ち込んでもらっている。1階ユニットでは、利用者と職員が食事を共にしていない。2階ユニットでは、同じ食卓を囲んで見守りや介助を行いながら一緒に食事を楽しんでいる。オープンキッチンであり、調理や盛り付けの様子が楽しめたり、美味しそうな匂いを感じることができ、重度の利用者も共に過ごしている。1階ユニットでは、宅配業者によるおかずを、利用者の状態に合わせて、食べやすい大きさに手を加えている。定期的な健康診断の結果を踏まえ、医療関係者にアドバイスを受けながら食事の提供を行っている。事業所では、ただ食べるだけでなく、そこに楽しみが見いだせるよう支援したいとの思いを持っており、1階職員の体制が整えば、宅配業者を利用しないで、2階と同様に食事を提供したいと考えている。今後の体制整備に期待したい。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	季節行事や誕生日、おやつ作りなどで実施している	/	/	△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	個々の残存能力に合わせて参加していただいている	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	把握している	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	季節行事や誕生日、おやつ作りなどで実施している	/	/	△	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	工夫して取り組んでいる	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	個別に使いやすい物を使用している	/	/	◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	食事は一緒にしていないが、見守りや介助はさりげなくサポートしている	/	/	△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	五感で感じていただけるように配慮している	◎	/	◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	個別の日常記録にチェック欄を作り、必要量を確保できるように支援している	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	個別の日常記録にチェック欄を作り、必要量を確保できるように支援している	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	日常食は宅配給食を利用し、栄養士によるバランスの取れた食事となっている。間食に牛乳や果物、手作りスイーツなどを取り入れ、栄養を補っている。定期的に連携医の血液検査を受けて健康管理している	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	衛生面は特に気をつけている	/	/	/	

愛媛県グループホーム優寿の里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	勉強会や参考資料、おはよう21などで学ぶ機会を持ち、理解して支援している。	/	/	/	毎食後、歯磨き等の口腔ケアを実施し、健康状況を確認している。気になることがあれば歯科医につなぎ、口腔ケアの方法を指導してもらっている。受けたアドバイスを活かしながら、利用者ができないことを介助し、支援している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	口腔ケアの際にチェックし、歯科連携医に診てもらっている	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	勉強会や訪問診療時のアドバイスを日常支援に生かしている	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	個々の必要性に応じて支援している	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	日常的に支援している	/	/	◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	個々の必要性に応じて支援している	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	勉強会や参考資料、おはよう21などで学ぶ機会を持って排泄介助について理解し、個別に把握して支援している。	/	/	/	排泄パターンを把握して、時間やタイミングを見計らって誘導を行っている。おむつ等排泄用品の使用に関し、業者に勉強会を開いてもらいながら知識を高め、排泄介助の技術向上に努めている。重度化が進み、日夜間ともにおむつの利用者が増えている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	勉強会や参考資料、おはよう21などで学ぶ機会を持って理解し、個別に把握して支援している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	チェック表に記入して情報共有している	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	勉強会や参考資料、おはよう21などで学ぶ機会を持って排泄介助について理解し、個別に把握して支援している。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	日常的に改善に向けた取り組みを行っている	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排泄パターンを把握して誘導をしている	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	本人やご家族と相談して決めている	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	一人ひとりの状態に合わせて使い分けをしている	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	一人ひとりの状態に合わせて、工夫して自然排便を促している	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	◎	毎日お湯をはり、ご本人の希望や習慣にそってゆっくりと入浴して頂いている	◎	/	◎	希望に応じて毎日入浴ができる体制にしている。基本的に冬季は週2回の入浴であるが、夏季は回数を増やし、気持ちよく過ごしてもらえるように努めている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	毎日お湯をはり、ご本人の希望や習慣にそってゆっくりと入浴して頂いている	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	支援している	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	◎	誘導の仕方を工夫し、無理強いせず入浴していただいている	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	ご本人の顔色や状態観察、バイタルチェックし、入浴の可否を見極めている 入浴後は水分を提供し、状態を観察している	/	/	/	

愛媛県グループホーム優寿の里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	夜勤者の申し送りや記録を情報共有して把握している	/	/	/	薬剤を服用する利用者もいるが、服用に関しては医療機関と連携しながら支援している。できる限り薬剤の服用に頼らない睡眠が確保できるよう、日中を活動的に過ごせるよう支援に努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	日中活動的に過ごし、9人全員安眠できている	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	睡眠導入剤や安定剤を使用せず安眠できている	/	/	◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	個別に支援している	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	いつでもできるようにしている	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	必要な手助けをして支援している	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	いつでも気兼ねなくできるようにしている	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	必要な手助けをして支援している	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	間に入って支援している	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	◎	勉強会や参考資料、おはよう21などで学ぶ機会を持って理解し、個別に能力を把握して支援している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	◎	希望があればいつでもできるように支援している	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	◎	日頃からホームで必要な物の買い物に同行して頂いている	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	◎	能力に応じて個別に支援している	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	本人、家族と話し合っている	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	本人、家族と話し合っている	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	ニーズに合わせて柔軟に対応させていただいている	◎	/	◎	家族と共に自宅に帰省したり、遠方の自宅付近へ「ふるさとドライブ」と称した支援を行ったりしている。利用者や家族のその時々々の個別ニーズに、できるだけ応えたいという思いで取り組んでいる。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関はいつも開放し、気軽に出入りしていただいている	◎	◎	◎	常に開錠しており、季節の花が咲き誇る手入れの行き届いた玄関まわりとなっている。地域の福祉事業所の職員の出入りも日常的にあり、気軽さが感じられる。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	家庭的で使い勝手や居心地の良い空間になっている	◎	◎	◎	季節の花を生け、手作りの作品を飾った家庭的な空間を演出している。清掃が行き届いた清潔な共用空間であり、不快な臭気のない快適さがある。壁面装飾や設えに季節感が感じられるよう配慮し、居心地よく過ごせるように工夫されている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日、朝・夕・夜勤帯に分けて掃除している	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	壁面装飾や置物、生花などに季節感を取り入れ五感に働きかけている	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	個々の居心地の良い決まった居場所があり、自室と自由に引き来して過ごされている	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	カーテンやドアなどで見えないようになっている	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	個々の好みや状態に合わせた個性的な居室になっている	◎	/	◎	テレビや仏壇、ソファなど、利用者はそれぞれ自由に使い慣れたものを持ち込んで、居心地よく生活している様子である。チェック表を用いて布団乾燥などの寝具の手入れを実施し、気持ちよく使ってもらえるよう配慮している。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	残存能力を奪わないように配慮して工夫している	/	/	◎	トイレや居室は文字やイラストを用いて、視覚的に理解しやすいよう工夫している。洗面所の一部にはホースを取り付け、車椅子利用者にも手が届きやすく工夫をし、備品等の棚が高すぎる場所は位置を低くして、自分でできることを活かした生活の実現に努めている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	個々の状態を考慮して環境支援をしている	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	安全に、自由に手にとって使えるように配置している	/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	勉強会や参考資料、おはよう21などで学ぶ機会を持って理解し、鍵をかけない支援をしている。	◎	◎	◎	鍵をかけない支援が徹底されている。鍵をかけることの弊害や、なぜ鍵をかけない支援が必要であるか、勉強会を開催したり、介護専門誌から情報を得たりして、学びを深めている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	ご家族様にもご理解いただいている	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	見守りや行動を把握し、玄関だけでなく、リビングの出入り口も日中は、鍵をかけることはない	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	情報を共有し、把握している	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	日常記録や連絡帳で情報共有している	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	連携医と相談しアドバイスをいただき、適切な処置をしている	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	支援している	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	希望にそった適切な医療を受けられるように支援している	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	話し合って支援している	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	詳しく情報提供している	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	小まめに見舞いに行き、状態を確認し早期退院できるように相談している	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	再入院や、入院前後の通院時に関係性を深めるように努めている	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	小まめに情報を提供し、アドバイスを頂いている	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	24時間連携の体制になっている	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	連携医との医療連携体制ができています	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	個別の薬袋に薬の目的を記入。新しく処方された薬については必ず副作用、用法、用量をチェックしている	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	工夫して取り組んでいる。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	日常的に行っている	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	状態の変化を観察し、医療や家族に情報を提供している	/	/	/	

愛媛県グループホーム優寿の里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	ご入居時や状態変化の段階ごとに話し合っ方針を決めている	/	/	/	看取りの指針は現在準備中で、平成31年春からの運用を予定している。現在まで4名の看取りを経験し、利用者の状態に応じて、家族や医療機関と方針を共有している。今後、策定した指針に沿ったチーム編成、方針の共有、評価、勉強会等が実施できる体制整備に期待したい。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	ご本人の関係者全員で話し合い、方針を共有している	◎	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	◎	見極めてご家族や連携医と相談し、方針を決めている	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	日頃から看取りに付いての説明をし、理解を得ている	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	重度化や看取り支援の体制が整っている	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	日頃からご家族様との関わりを大切に、精神面での支えとなるように支援している	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	定期的に学習の機会を設けている	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	定期的に学習の機会を設け訓練をしている	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	感染発生情報を敏感に入手し、対応策を施している	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	感染発生情報を敏感に入手し、対応策を施している	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	清潔保持の支援をしている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	日頃からご家族との関わりを密に持ち、共に支えていただいている	/	/	/	現在の利用者は、キーパーソンが遠縁の親族である場合が多く、事業所の活動を共にするまでには至っていないが、利用料を原則現金収納としているため、毎月の面会にはつながっている。なかなか来訪の機会に恵まれない家族もいるため、2か月毎に報告書で暮らし方を伝えたり、電話連絡を行ったりしている。職員の異動含め運営についての報告は発信が弱く、家族が運営状況を把握できるように、伝え方の工夫をして欲しい。家族とのより良い関係を目指し、積極的に声かけを行うことで、退居した後も交流が続いている家族がある。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	気軽に訪れ、居心地良く過ごせるように配慮して対応している	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	ほとんどのご入居者様にご家族に恵まれない環境である	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	原則、1回/月以上のご面会をお願いし、日常の情報をお伝えしている。ご来訪がない場合は電話でお伝えしている	◎	/	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	◎	ご家族様とのコミュニケーションをとりながら知りたい情報を提供している	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	間に入り、良好な関係を築ける様に支援している	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	その都度報告し、ご理解・ご協力を頂いている	x	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	x	ご家族の状況が遠方だったり、ご高齢だったり、できない事情だったりするため	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	◎	起こり得るリスクについては特に慎重に検討し、ご家族と話し合っている	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	ご家族様との信頼関係の構築に努め、気軽に何でも相談できるような関係性となっている	/	/	◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	詳細に説明し、ご理解、ご納得を頂いている	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	ご納得いただける支援を行っている	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	具体的に説明し、同意を得ている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ.地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	設立段階には説明会や見学会を開催し、説明し、理解を図っている	/	○	/	民生委員から情報を得て、公民館行事に参加している。近隣の工場と災害時の避難協力が得られ、地域住民とのつながりはある。積極的な取組みがあり、変化に富んでいる分、今後は地域住民全体に向けての情報発信や共有にも期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	できる範囲で参加させて頂いている	/	×	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	◎	開設16年を経過し、地域に根付いた施設となっている	/	/	/	
		d	地域の人々が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	自由に入出入りできるようにオープンにしている	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	日常のお付き合いをさせて頂いている	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	行事企画や日常のご入居者と近隣の地域資源を活用し、ご協力いただいている	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	◎	個別に寄り添って検討し、支援している	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	◎	日常的に取り組んでいる	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	×	1階ユニットは現在、ご家族の状況が遠方だったり、高齢だったり、できない事情だったりするためできていない	◎	/	△	家族と疎遠であったり、キーパーソンが遠縁であるといった利用者が多いため、家族参加が困難ではあるが、民生委員、駐在所、近隣の薬局、地域の福祉事業所等、多方面からの参加を得て開催している。今後は、地域住民の参加協力を得て、つながりを強化するための活用にも期待したい。利用者の生活状況や、評価への取組み状況の報告を詳しく行い、会議で出された意見にはすぐに対応しているが、次回以降の会議に連動させ、報告や検討することが望まれる。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取組み状況等)について報告している。	◎	詳しく報告している	/	/	◎	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	会議で出されたご意見やご提案はすぐに反映させている	/	△	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	工夫して開催している	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	公表している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	常に理念を念頭に置いて取り組み、支援している	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	パンフレットに記載し、見学者には分かりやすく説明している	○	△	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	取り組んでいる	/	/	/	1階ユニットと2階ユニットとの運営に独立性が高く、それぞれに特色がある。職員会議のほか、日常的に話し合いをする機会も多く、代表者が現場で業務を共にしているため、職員は気軽に意見しやすい環境となっている。食事会や新年会等、職員の家族も参加できる親しさがああり、職員の家族にも就労への理解が深まるように配慮している。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	現場に即した内容をOJTに取り上げて、学ぶ機会を作っている	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	常に働きやすいやりがいのある職場作りを気にかけて改善に取り組んでいる	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	取り組んでいる	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	常に働きやすいやりがいのある職場作りを気にかけて改善に取り組んでいる	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	勉強会やOJT研修に取り上げて学び、理解している	/	/	/	虐待に関する勉強会や、内外研修の参加は年6回にのぼり、意欲的に学びの機会を持っている。日常のケアの中で、気になる言葉遣いや対応があれば、その都度注意できる職員関係であり、不適切なケアを発見した場合の対応方法や手順について周知している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	常に現場を把握し、一緒に考え話し合い、自ら動くようにしている	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	常に現場に注意を払って把握し、小さな芽のうちに改善するように取り組んでいる 対応方法や手順は学習している	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	日常的に現場のケアに参加し、コミュニケーションを図りながら注意を払っている	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	定期的な勉強会やOJT研修、ケア会議などで話し合い、正しく理解している	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	グレーゾーンにあたる不適切なケアも表面化し、話し合って改善している	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	施錠や身体拘束は行っていない	/	/	/	

愛媛県グループホーム優寿の里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	OJT資料をもとに、学習し理解している	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	◎	ご家族の事情に即して相談に乗ったり、情報提供したりしている	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	◎	連携を築き、ご協力やアドバイスを頂いている	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	マニュアルがあり、周知している	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	◎	定期的に勉強会のテーマに取り上げ学習している	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	些細なことも表面化し、事故の可能性を小さな芽のうちに摘むように努めている	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	日常的に取り組んでいる	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	マニュアル通りに対応し改善策を検討している	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	苦情を寄せられたことはないが、今後そのようなことがあれば真摯に対応し、市にも相談報告をしたい	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	苦情を寄せられたことはないが、今後そのようなことがあれば真摯に対応し、市にも相談報告をしたい	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	本人の思いや要望は日常的に耳を傾け、また、ご本人とのコミュニケーションから探ったりして対応している	/	/	◎	利用者には日常の生活の中で意見を伺っている。家族には、意見箱の利用や面会時に個別に伺ったり、年2回のアンケートを実施して思いを把握したりしている。家族からの要望などには早急な対応を心がけ、要望によって事業所内に職員紹介の掲示が行われるようになったケースもある。職員は会議で意見を発言し、日頃から管理者と業務を共にしているため、実情を理解し合い、気軽に相談できる関係が構築されている様子が伺えた。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	来訪の機会があるたびに、ご意見やご要望を確認している	◎	/	◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	適宜行っている	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	常に現場とかかわり、直接聞くようにしている	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	常に現場とかかわり、直接聞く機会を持ち、一緒に検討している	/	/	◎	

愛媛県グループホーム優寿の里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年1回以上取り組んでいるが、夜勤専門員や入社間もないパート職員はまだ、意識が薄いところがある	/	/	/	運営推進会議では、サービス評価への取り組みについて報告しているが、家族等に今後の取り組みのモニターを依頼するまでには至っていないため、今後継続的にモニタリングが行われることに期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	◎	意識統一や学習の機会として活かしている	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	取り組んでいる	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	◎	運営推進会議にて報告している。	○	△	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	◎	確認している	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	マニュアルを作成し、防災の日を設けて学習し、周知している	/	/	/	毎月定期的に災害訓練を実施し、隣の企業とも避難時の協力体制を整えている。訓練の中で、指定避難所に十分な環境がない等の課題を発見し、近隣の福祉施設数か所で「一般社団法人えひめ防災福祉協議会」を立ち上げるに至った。福祉事業所との協力・支援体制は強化され、独自の熱意ある取り組みをしているので、今後家族や地域住民にも理解が深まるよう体制整備に期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	1回/月の防災の日訓練を計画的に行っている	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	定期的に行っている	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	確保している	△	△	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	◎	取り組んでいる	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	今後、取り組んでいきたい	/	/	/	認知症相談に知人が訪ねてくることもあるが、事業所の認知症ケアの実践力を地域に発信し、その活動がさらに広がることを期待したい。市町や地域包括支援センター、地域の福祉事業所とは日頃から地域活動を協働して行っており、良好な関係が築けている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	◎	常時、相談や見学の窓口をオープンにして支援を行っている	/	△	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	共用スペースが狭く、できることが限られてくるが、祭りや救急救命訓練などの場として活用している	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	受け入れる準備はあるが現在は実施していない	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	◎	連携を密にし、地域活動にもできる限り参加している	/	/	◎	

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

#### II. 家族との支え合い

#### III. 地域との支え合い

#### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成31年2月6日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 9名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	2名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3870102690
事業所名	グループホーム優寿の里
(ユニット名)	2階
記入者(管理者)	
氏名	堀恵子
自己評価作成日	平成31年1月17日

<p>・生活の質の向上 ・共に生きる姿勢 ・信頼関係の確立</p>	<p>・個人記録に本人の表情、発した言葉など、細かく記録として残しておく。 緊急連絡網を使って、実施訓練を行いスムーズに対応できるか確認する。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 海や川に近く、豊かな自然に囲まれた環境であり、玄関まわりは丁寧に手入れされ、季節の花が見事に咲き誇っている。事業所近隣は機械部品を扱う企業が多く、隣の企業とは災害時の避難協力を得ることができ、併せて地域住民や他福祉事業所とも災害時の支援体制が敷かれ、事業所としての発信力が高く感じられる。2階ユニットは代表者夫妻が、1階ユニットは代表者の親族夫妻が中心となった運営方法はユニークであり、利用者を主体とした家庭的な事業所であると感じられた。</p>
---	---	---

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	本人への聞き取り、ご家族からの情報を得、ケアプランに繋げている。	◎	/	◎	利用者から話を聞くとともに、家族からも面会時や介護計画の作成時に情報を得ている。得た情報はアセスメントシートに記入して共有し、身体的情報にとどまらず、生活史や嗜好に至る幅広い情報収集ができています。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	本人の表情や様子を注意深く観察したり、面会時に、ご家族様から情報を得ている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	面会時に、詳しくお聞きしている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	本人の言葉、行動を日々の記録に残し、共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	見落とさないように留意している。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入所時、面会時にお聞きしている	/	/	◎	入居前に福祉サービスの利用があれば事業者から情報を得ている。利用者や家族からの情報に加え、インターネットを使い出生地、長く住んでいた地域の社会資源、思い出の場所、自宅周辺の地図等の情報をまとめ、アセスメント内容を日常のケアに活かしている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	日々の記録に残し、毎月のモニタリングで把握している。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	日々の記録に残し、職員間で共有している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	いつもと違う事があれば、早めに気づき対応している。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	一人一人の24時間の記録に残している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	ケアプラン変更時には、ご家族からのご意見も参考に立てている。	/	/	○	毎月、サービス担当者会議、職員会議、モニタリング会議を実施し、利用者のニーズに基づいた検討を行っている。参加できない職員はあらかじめ事前に意見を提出し、職員の意見がアセスメントに活かされている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	本人、職員間で定期的に会議で検討し支援している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	職員間で課題を共有し、実践に取り組んでいる。	/	/	/	

愛媛県グループホーム優寿の里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	本人、ご家族からのご意見を組み入れて、プランを立てている。	/	/	/	利用者や家族とは、支援時や面会時に課題を共有している。往診する医師や看護師とも情報を交換し、それぞれの意見を活かした介護計画作成となっている。介護計画の作成については、近隣の看護事業所とも助言をしよう関係にあり、より良い計画書の作成に向け取り組んでいる。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	医療面では、かかりつけ医、に相談し、本人、ご家族の意見を聞き取りして作成している	◎	/	◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	ご家族からの意見を参考に本人にとってより良い環境を作っている	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	ご家族や、地域の人たちの協力を得、プランに繋げている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	職員間で共有し、実践に取り組んでいる。	/	/	◎	毎月の職員会議やモニタリング会議で、介護計画に関する共有・理解を深めている。日々の個別支援記録で実施状況を確認することができるが、利用者の具体的な暮らしの様子や支援してどうだったか、職員の気づきやアイデアといった記録が少なく、個別支援計画に基づいた支援記録の充実に期待したい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	定期的にモニタリングを行いケアの実践に取り組み、日々の支援につなげている。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	個々の記録に言葉、表情等を記録している。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	個々の記録に残している。	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	定期的に行い見直しを行っている。	/	/	◎	3か月を基本とし、介護計画の見直しを実施している。毎月モニタリング会議を開催し、全利用者の現状確認を行っている。入退院等、利用者の状態に変化が生じた際には、その都度利用者や家族、関係者と話し合い、速やかな見直しを行っている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	月1回の職員会議にて確認を行っている。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	かかりつけ医、薬剤師にも相談しながら医療支援に繋がっていている。	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	緊急時には、早めに対策を考えている。	/	/	◎	毎月の職員会を課題解決の場としている。会議に参加できない職員には事前に話し合いたい内容の意見を求め、議事録の回覧、申し送りノートの確認で伝達している。重要な内容については、管理者が口頭で理解度を確認して、確実に情報を伝達している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	職員全員の意見交換ができやすいように、日頃からコミュニケーションを取っている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	△	不参加の職員には、前もって意見を聞いている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	職員間の伝達を行っている	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	職員間の伝達簿、報告にて共有している。	/	/	○	議事録や連絡帳、申し送りノート等を活用し、確認後に押印し、管理者が最終的に回覧状況を確認している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	管理日誌、伝達簿にて、情報を共有している。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	叶えられるように努めている。	/	/	/	レクリエーションでは、利用者がしたいことを選択できるよう、塗り絵や計算ドリル等バリエーションを広げている。利用者のアセスメントは十分に行っているため、好みや生活歴といった情報を活かした声かけを実施し、思いや反応がよく見られており、生活の様々な場面を自己決定する場となっている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	一人ひとりを大事にし、ゆっくりとお伺いしている。	/	/	◎	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	残存能力に合わせながら支援している。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	一人ひとりのペースに合わせながら可能な限り行っている。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	コミュニケーションをよくとっている。	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	ちょっとした顔の表情を見逃さずに、本人らしく生活ができるように支援していく。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	基本方針を理解しており、言葉がけ、態度には、とくに注意をはらっている。時には、大きい声になる時もある。	◎	◎	○	家族や地域住民からは、声かけや対応が丁寧に行われているとの意見が聞かれている。プライバシーの配慮をしながら丁寧に利用者に話しかけるように心がけているが、共同生活の場であるため、難聴の利用者については「さりげなく」が難しい場合がある。居室が利用者専用の場所であることを理解し、扉を開放することを好む利用者にはのれんを設置する等の工夫を行い、プライバシーへ配慮している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	◎	職員は常に意識してケアにあたるように努めている。	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	声掛けに配慮している。出入口には、カーテンをかけた注意をはらっている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	居室への出入りの際には、ドアノック、声掛けを行っている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	個人情報保護方針を理解し、周知徹底させて実施している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	人生の先輩として敬い、感謝の意を述べている。	/	/	/	利用者同士の相性や、その時々によってトラブルが予測される際には、時間や場所を調整しながら支援し、利用者同士の関係が良好なものとなるように努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	利用者同士が役割分担をもち支えあっている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	利用者間でトラブルにならないような、環境を作っている。	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	職員が間には入り解消に努めている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム優寿の里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	◎	入所時、面会時にお聞きしている	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	◎	入所時、面会時にお聞きしている	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	外出する事は難しいが、訪問での関係性を築いている。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	面会時には、ゆっくりと居室過ごして頂いている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	本人の希望を聞きながら、外出支援を行っている。	○	×	○	天気の良い日は外気浴や散歩に出かけ、職員の用事に同行するなどの戸外に出る機会が多い。重度の利用者も外気浴や、可能な時にはドライブに出かけている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	ご家族、職員との外出支援となっている。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	車椅子での外気浴、散歩を行っている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	本人の希望を聞き取りし、ご家族と協力しながら行っている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	研修の参加、勉強会で理解を深め、一人ひとりの状況を把握しケアに当たっている。	/	/	/	アセスメントで心身状況を確認しながら、レクリエーション活動を通じて機能の維持・向上が図れるように、提供する内容をよく研究している。脳トレ、計算ドリル、塗り絵のほか、踏台昇降をしたり、音楽を聴きながらのリハビリ体操、歩行訓練と、いったバリエーションの多さには、取り組みに対する職員の意欲を感じる。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	機能低下の状態を主治医、看護職とも相談の上、維持できるように努めている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	ゆっくりと見守りながら、一緒に行っている。	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	職員会議で話し合い、情報を共有している。	/	/	/	生活リハビリ等の運動プログラムを日課にしている利用者や、調理や洗濯等の家事を役割として持つ利用者もいるが、全体的に重度化により機会が減少傾向にある。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	本人のできる事を見つけ、張り合いをもって生活して頂いている。	○	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	◎	地域の行事に参加し楽しんで頂いている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	その人らしい身だしなみになれるように、気を配っている。	/	/	/	事業所を挙げて整容面での支援には積極的に取り組んでいる。重度の利用者を含め、アセスメントで好みをよく把握し、「本人らしさ」を追及する支援に努めている。職員はプライドへの配慮を心がけ、さりげない介助に努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	◎	髪形は訪問美容師さんと相談しながら行っている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	本人らしくできるように、考えている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	外出、行事などでは、その人らしいおしゃれを楽しんで頂いている。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	プライドを大切に、さりげなく声掛けを行っている。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	ご家族、本人の希望で訪問美容を利用している。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	ご家族と相談の上に行っている。	/	/	◎	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	食事の楽しさ、大切さを理解している。	/	/	/	1階ユニットと2階ユニットで、食事の支援方法に異なる部分がある。1階ユニットでは、宅配業者のおかずを利用し、炊飯をユニットで行っている。2階ユニットでは、利用者の好みを取り入れながら調理を共にし、朝どれ野菜といった旬の食材を使った季節の献立となっている。できる限り箸を使って自分で食べることを支援するため、食器類は全利用者に持ち込んでもらっている。1階ユニットでは、利用者と職員が食事を共にしていない。2階ユニットでは、同じ食卓を囲んで見守りや介助を行いながら一緒に食事を楽しんでいる。オープンキッチンであり、調理や盛り付けの様子が楽しめたり、美味しそうな匂いを感じることができ、重度の利用者も共に過ごしている。1階ユニットでは、宅配業者によるおかずを、利用者の状態に合わせて、食べやすい大きさに手を加えている。定期的な健康診断の結果を踏まえ、医療関係者にアドバイスを受けながら食事の提供を行っている。事業所では、ただ食べるだけでなく、そこに楽しみが見いだせるよう支援したいとの思いを持っており、1階職員の体制を整えば、宅配業者を利用しないで、2階と同様に食事を提供したいと考えている。今後の体制整備に期待したい。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	以前は行っていたが、徐々に難しくなっている。できる事を一緒に行っている。	/	/	△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	利用者と共にっており、力が発揮できる時もある。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	職員間で情報を共有し把握している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	旬の食材を使い季節を感じて頂いている。	/	/	△	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	目で見る楽しみも感じて頂いている。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	本人に合わせて使ってもらっている。	/	/	◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	同じ食卓を囲み、サポートしながら、楽しく食事をしている。	/	/	△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	リビングとキッチンが隣接しており、匂いなどを感じ取られる。	◎	/	◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	毎日、個々のチェック表にて確認している。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	毎回の食事で、職員が把握し、工夫しながら提供している。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	献立表で確認し、偏りが無いように配慮している。	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	随時、食材の管理を行い、衛生面には、特に配慮している。	/	/	/	

愛媛県グループホーム優寿の里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	口腔ケアの重要性を理解している。	/	/	/	毎食後、歯磨き等の口腔ケアを実施し、健康状況を確認している。気になることがあれば歯科医につなぎ、口腔ケアの方法を指導してもらっている。受けたアドバイスを活かしながら、利用者ができないことを介助し、支援している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	食事後の歯磨きには、職員が付き添い確認をしている。	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	訪問歯科医より学び、日常に活かしている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	毎日、義歯洗浄を行っている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	職員が、見守り、口腔内のチェック等を行っている。	/	/	◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	治療が必要であれば、訪問歯科を利用している。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	勉強会などで確認し理解している。	/	/	/	排泄パターンを把握して、時間やタイミングを見計らって誘導を行っている。おむつ等排泄用品の使用に関し、業者に勉強会を開いてもらいながら知識を高め、排泄介助の技術向上に努めている。重度化が進み、日夜間ともにおむつの利用者が増えている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	連携の看護師より聞いたり、勉強会などで確認し理解している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	一人ひとりのチェック表でパターンを把握している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	時間的にトイレ誘導を行っている。必要時には会議をもって検討し、支援している。	/	◎	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	会議で検討して、改善に向けた取り組みを行っている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	1時間ごとの記録を確認し、声かけ、誘導を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	排泄リズムを確認、検討し、本人や家族と相談しながら選択している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	会議で検討し、随時使い分けている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	毎朝のヨーグルト提供、食物繊維の豊富な食材の提供、適宜な運動を行っている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	毎日時間帯は大体決まっている。希望は聞きながら支援している。	/	◎	◎	希望に応じて毎日入浴ができる体制にしている。基本的に冬季は週2回の入浴であるが、夏季は回数を増やし、気持ちよく過ごしてもらえるように努めている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	ゆっくりと、入浴できるよう個浴で支援している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	できる事は行って頂いている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず、気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	無理強いせず、本人の希望を聞いている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前後の健康状態は確認している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	個々の記録で把握できている。	/	/	/	薬剤を服用する利用者もいるが、服用に関しては医療機関と連携しながら支援している。できる限り薬剤の服用に頼らない睡眠が確保できるよう、日中を活動的に過ごせるよう支援に努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	職員間で、日中の過ごし方などの原因を探り、リズムを整えている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	利用者の様子をかかりつけ医に相談しながら、支援を行っている。	/	/	◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	本人の好まれる場所で休んで頂いている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	ご家族に電話ができるように支援をしている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	暑中見舞い、年賀はがき送りの手助けをする支援を行っている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	配慮している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	ご家族とは音信がとれている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	ご家族の理解はあり、電話はかかってきている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	好みの買い物には出かける事はあるが、お金の所持はできていない。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	買い物先の理解や協力を得る働きかけは、行っていない。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	能力に応じて、本人、ご家族と相談しながら支援している。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	本人、ご家族と話し合っている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	管理方法を明確にしており、出納帳を面会時に確認していただいている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	さまざまな状況に応じて、多機能に取り組んでいる。	◎	/	◎	家族と共に自宅に帰省したり、遠方の自宅付近へ「ふるさとドライブ」と称した支援を行ったりしている。利用者や家族のその時々個別ニーズに、できるだけ応えたいという思いで取り組んでいる。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	気軽に訪問できるよう玄関は、常にオープンにしている。	◎	◎	◎	常に開錠しており、季節の花が咲き誇る手入れの行き届いた玄関まわりとなっている。地域の福祉事業所の職員の出入りも日常的にあり、気軽さが感じられる。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	共用の空間は、家庭的になっている。	◎	◎	◎	季節の花を生け、手作りの作品を飾った家庭的な空間を演出している。清掃が行き届いた清潔な共用空間であり、不快な臭気のない快適さがある。壁面装飾や設えに季節感が感じられるよう配慮し、居心地よく過ごせるように工夫されている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日、数回の掃除で、気持ちよく生活を送って頂いている。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	共同の生活の場には、季節の花を飾ったり、居心地良い空間となっている。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	本人の思いで、自由に居室と共同の空間を歩き来している。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	ドア、又はカーテンで仕切っている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	本人と、ご家族と相談のうえ、居心地良く生活して頂いている。	◎	/	◎	テレビや仏壇、ソファなど、利用者はそれぞれ自由に使い慣れたものを持ち込んで、居心地よく生活している様子である。チェック表を用いて布団乾燥などの寝具の手入れを実施し、気持ちよく使ってもらえるよう配慮している。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	居室やトイレのドアなどに言葉やイラストで示している。	/	/	◎	トイレや居室は文字やイラストを用いて、視覚的に理解しやすいよう工夫している。洗面所の一部にはホースを取り付け、車椅子利用者にも手が届きやすく工夫をし、備品等の棚が高すぎる場所は位置を低くして、自分であることを活かした生活の実現に努めている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	本人、ご家族と話し合い決めている。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	馴染みの物品はいつでも手に取れる場所に置いている。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	職員は、鍵をかける事の弊害は理解しており、自由に出入りできている。	◎	◎	◎	鍵をかけない支援が徹底されている。鍵をかけることの弊害や、なぜ鍵をかけない支援が必要であるか、勉強会を開催したり、介護専門誌から情報を得たりして、学びを深めている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	ご家族は理解されている。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	ユニットごとの出入り口には、ドアチャイムを設置。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	個人ファイル、受診記録などで把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	細かなチェックで、個々の記録に残している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	かかりつけ医、看護師とは連携をとっており、気軽に相談している。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	本人、家族と相談しながら受診できるよう支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人、家族と相談しながら健康管理を医療支援に繋げている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	面会時、電話にて合意を得ている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	個人情報の提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	随時、情報交換や相談に努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	随時の訪問と、葉書を送っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	月2回の往診時に情報を伝え、相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	かかりつけ医と医療連携体制をとっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	かかりつけ医と医療連携体制を整えている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	薬剤師から説明をうけ、理解している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	飲み忘れ、語薬が無いよう、複数の職員が確認している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	異変があれば、かかりつけ医に連絡、支持をおおいでいる。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	個々の記録に残し、往診時に情報提供している。ご家族には、変更時に報告している。				

愛媛県グループホーム優寿の里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時に説明を行い、その都度話し合いを行い方針を共有している。				看取りの指針は現在準備中で、平成31年春からの運用を予定している。現在まで4名の看取りを経験し、利用者の状態に応じて、家族や医療機関と方針を共有している。今後、策定した指針に沿ったチーム編成、方針の共有、評価、勉強会等が実施できる体制整備に期待したい。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	本人と係わる関係者と方針を共有している。	◎		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	職員の力量を把握し、見極めを行っている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	定期的にご家族にアンケートを行い、それに沿った説明を行っている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	かかりつけ医と連携を図り、支援していく体制を整えている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	ご家族への心理的支援は行っている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	外部、内部研修で定期的に学んでいる。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	マニュアルどおりに対応ができるように、定期的に学んでいる。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	情報を得て、職員間で共有している。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	かかりつけ医、地域の事業所などから、情報収集している。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員は、徹底している。来客には、張り紙と声掛けを行っている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	理念に掲げ、関係性を築いている。	/	/	/	現在の利用者は、キーパーソンが遠縁の親族である場合が多く、事業所の活動を共にするまでには至っていないが、利用料を原則現金収納としているため、毎月の面会にはつながっている。なかなか来訪の機会に恵まれない家族もいるため、2か月毎に報告書で暮らしぶりを伝えたり、電話連絡を行ったりしている。職員の異動含め運営についての報告は発信が弱く、家族が運営状況を把握できるように、伝え方の工夫をして欲しい。家族とのより良い関係を目指し、積極的に声かけを行うことで、退居した後も交流が続いている家族がある。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	面会時には、お茶を提供し、ゆっくりと過ごして頂いている	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	活動に参加できるよう、声をかけている。	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	2か月に1回、本人のご様子などの報告書の発行。年4回の写真送付を行っている。	◎	/	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	面会時にお話ししたり、アンケートを実施している。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	より良い関係性は築けている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営推進会議、面会時での報告で理解を得ている。	x	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	x	働きかけは行っているが、余り協力的ではない。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	会議で話し合い、ご家族に説明している。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	気軽にお話できる関係性を保っており、定期的な連絡は行えている。	/	/	◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	変更時には説明を行い、理解を頂いている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	本人、ご家族との話し合いで納得のいく退去先に移れるように支援している。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約書他文書で説明し、同意を得ている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ.地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	地域の人に理解して頂いている。	/	○	/	民生委員から情報を得て、公民館行事に参加している。近隣の工場と災害時の避難協力が得られ、地域住民とのつながりはある。積極的な取組みがあり、変化に富んでいる分、今後は地域住民全体に向けての情報発信や共有にも期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	近隣の散歩時にあいさつを交わしたり、地域の行事への参加などで関係性を深めている	/	×	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	地域に関わることで、増えてきている。	/	/	/	
		d	地域の人々が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	◎	気軽に立ち寄れている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	◎	散歩時の挨拶。地域の行事の参加でお付き合いできている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	地域の行事から生活の広がりを図ることを支援してくれるような働きかけを行っている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	地域資源を利用して、楽しく生活が送れるよう支援している。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	◎	地域の諸施設と協力できるよう関係性を深めている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	運営推進会議への参加がある。	◎	/	△	家族と疎遠であったり、キーパーソンが遠縁であるといった利用者が多いため、家族参加が困難ではあるが、民生委員、駐在所、近隣の薬局、地域の福祉事業所等、多方面からの参加を得て開催している。今後は、地域住民の参加協力を得て、つながりを強化するための活用にも期待したい。利用者の生活状況や、評価への取組み状況の報告を詳しく行い、会議で出された意見にはすぐに対応しているが、次回以降の会議に連動させ、報告や検討することが望まれる。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取組み状況等)について報告している。	◎	運営推進会議で報告している。	/	/	◎	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	出された意見や提案等をサービスの向上に活かしている。	/	△	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	メンバーが出席しやすい時間帯に配慮している。	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	△	ご家族には、来訪時に説明を行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	理念に基づいたケアプランを職員間で共有し、介護サービスに取り組んでいる。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	施設パンフレットに記載し、伝えている。	○	△		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	職員の力量を把握し、計画的に研修に参加している。				1階ユニットと2階ユニットとの運営に独立性が高く、それぞれに特色がある。職員会議のほか、日常的に話し合いをする機会も多く、代表者が現場で業務を共にしているため、職員は気軽に意見しやすい環境となっている。食事会や新年会等、職員の家族も参加できる親しさがああり、職員の家族にも就労への理解が深まるように配慮している。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	計画的に実施しスキルアップを図っている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	常にコミュニケーションをとり、関係性を構築している。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	同業者と交流する機会を積極的に行い、意識向上に努めている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	気軽に話せる関係性を作っている。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	マニュアルに基づいた勉強会、研修会への参加により理解できている。				虐待に関する勉強会や、内外研修の参加は年6回にのぼり、意欲的に学びの機会を持っている。日常のケアの中で、気になる言葉遣いや対応があれば、その都度注意できる職員関係であり、不適切なケアを発見した場合の対応方法や手順について周知している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	現場の把握と、会議への参加を行っている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	職員間で注意を払っている。				
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	日頃からコミュニケーションをとっている。また職員からの聞き取りをしている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	コンプライアンスについて勉強し、意識づけている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	研修に参加したり、勉強会で話し合う機会をつくっている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	事業所としての取り組みを説明し、理解を得ている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	◎	研修の参加や、勉強会で理解できている。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	◎	必要とされる方には、パンフレット等で情報提供し、相談にもっている。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	◎	必要とされる方には、専門機関と連携体制を築いている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	マニュアルを作成し、職員に周知している。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	訓練を定期的に行っているが、全員ではない。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	ヒヤリハットにまとめ、職員間で話しあいをもって再発防止に努めている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	定期的に会議を行い、事故防止に取り組んでいる。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	マニュアルを作成しており、職員は理解できている。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	職員に報告し速やかに対応している。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	苦情に対して、納得をえながら、前向きな話し合いを行っている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	気軽に話ができる関係性を築いている。	/	/	◎	利用者には日常の生活の中で意見を伺っている。家族には、意見箱の利用や面会時に個別に伺ったり、年2回のアンケートを実施して思いを把握したりしている。家族からの要望などには早急な対応を心がけ、要望によって事業所内に職員紹介の掲示が行われるようになったケースもある。職員は会議で意見を発言し、日頃から管理者と業務を共にしているため、実情を理解し合い、気軽に相談できる関係が構築されている様子が伺えた。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	面会時、アンケート等でお聞きしている。	◎	/	◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	情報提供を適宜行っている。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	現場から直接聞いている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	現場から直接聞き検討している。	/	/	◎	

愛媛県グループホーム優寿の里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	年1回取り組んでおり、意識統一を図っている。	/	/	/	運営推進会議では、サービス評価への取り組みについて報告しているが、家族等に今後の取り組みのモニターを依頼するまでには至っていないため、今後継続的にモニタリングが行われることに期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	◎	事業所の現状を把握し、課題を明らかにしている。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	目標達成に向けて取り組んでいる。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	◎	運営推進会議にて報告している。	○	△	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	◎	取組の成果を確認している。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	様々なマニュアルを作成し周知できている。	/	/	/	毎月定期的に災害訓練を実施し、隣の企業とも避難時の協力体制を整えている。訓練の中で、指定避難所に十分な環境がない等の課題を発見し、近隣の福祉施設数か所で「一般社団法人えひめ防災福祉協議会」を立ち上げるに至った。福祉事業所との協力・支援体制は強化され、独自の熱意ある取り組みをしているので、今後家族や地域住民にも理解が深まるよう体制整備に期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	定期的に訓練を計画して行っている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に行っている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	一般社団法人、えひめ防災福祉協議会を立ち上げ、防水害等の共同訓練を実施している	△	△	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	◎	他事業所の訓練に参加したり、市開催の会議に参加している。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	地域の研修会などへの参加で情報発信している。	/	/	/	認知症相談に知人が訪ねてくることもあるが、事業所の認知症ケアの実践力を地域に発信し、その活動がさらに広がることを期待したい。市町や地域包括支援センター、地域の福祉事業所とは日頃から地域活動を協働して行っており、良好な関係が築けている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	地域の方、知人からの相談にのり、支援を行っている。	/	△	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	事業所を解放していないが、地域の集まりなどには参加している。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	受け入れに協力した事がある。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	他の事業所、地域のイベントには、できる限り参加している。	/	/	◎	